

「どぶろく」と酒飲み」
 4月1日より、地域おこし協力隊として着任した高橋彩子です。大の酒好き・大酒飲みが、大好きなどぶろくを造りに、横浜からやって来ました。昔、祖父と飲んだどぶろくがとても美味しくて忘れられず、その日以来、日本酒とどぶろくを愛してやみません(笑)。
 地域おこし協力隊として、今は打当温泉マタギの湯でどぶろく製造の修行中です。私の夢は自分が造ったどぶろくを「北秋田自慢の一品!!」と地域の方々に太鼓判を押してもらえようになることです。
 最初は、昔飲んで虜(よか)になったどぶろくの味を再現することが目標でしたが、北秋田市に住み、実際にどぶろくを造ることで、味の再現より、地元で愛される商品を作りたいと思うようになりました。どぶろくで全国の酒

北秋田市
地域おこし
協力隊

きたあきたの
魅力発掘

vol. 4



高橋彩子隊員

好きの心と胃袋をわし掴みにしたい、いや、酒好きだけではなく、加工用のどぶろくから味噌やお菓子、パン、料理にわたって、いろいろな人の胃袋を喜ばせたい!そんな野望を胸に、日々楽しんで仕込みや情報収集、色々と試してみたいなど、思いを巡らせています。
 今はまだ修行中のため、にやにやしながら未来を思い描いて楽しんでいますが、3年後には自分の工房を持ち、一つ一つ夢を実現していきたいと思っておりますので、応援してもらえたらうれしいです!



▲蒸したあきたこまちを継ぎ足して、美味しいどぶろくを造ります

環境
コラム
第17回 楽しいイベント、美しい自然で
夏を感じよう!

ようやく梅雨が明け、気持ちよく晴れ渡った青空に眩しい太陽の日差し、いよいよ夏がやってきました。海水浴など夏を思いっきり楽しむ方も多くいるのではないのでしょうか。

さて、今月の環境コラムのテーマは「海ごみ」です。海ごみとは海を漂流しているごみや海岸に漂着したごみのことで、その多くはプラスチックごみ(レジ袋やペットボトルなど)です。海ごみには次の問題点などがあります。①一度拾っても、その後繰り返し漂着するため、拾うだけでは解決しません。②生物が本来のエサと間違えて飲み込んでしまい、死んでしまうことがあります。③ごみにより景観が悪化し、観光客から苦情が出たり、回収するために多くの費用が発生します。

海ごみは沿岸部の問題であると考えられている人が多いかもしれませんが、海に面していない内陸部でもごみが河川を通じて海へ漂着するため、内陸部にも関

海をきれいに!



わりがある問題です。きれいな海にするため、ごみを捨てても誰かが片付けてくれるだろうという考えをやめ、日頃から自然を守る行動をし、夏を楽しみましょう。

8月5日には、市民ふれあいプラザで北秋田エコフェスタが開催されます。身近で環境保全のためにどのような活動がされているのかを知ったり、自分もできそうな行動を発見するきっかけになるかもしれませんので、ぜひご参加ください。また、そのほかにも市内各地でイベントや花火大会が開催されます。きれいな街で美しい自然を感じながら楽しむため、より環境に配慮した行動を心掛けてみましょう。

浜辺の歌音楽館
30周年記念

北秋田市出身の作曲家・成田為三の音楽と生涯を紹介する浜辺の歌音楽館の開館30周年記念式典が、6月30日に同音楽館で行われ、地元の関係者や合唱団のほか浜辺の歌にゆかりのある神奈川県藤沢市の関係者など約140人が参加し、節目の年を祝いました。



浜辺の歌音楽館は成田為三を顕彰する施設として昭和63年8月に開館しました。洋館風の建物からは、成田為三が過ごした大正時代の文化を感じることができるとともに、貴重な楽譜などが数多く保存された日本で最初の音楽博物館です。
 この日の式典では、はじめに津谷市長が「浜辺の歌音楽館の開館30周年の大きな節目を契機に、この施設がより一層皆さんから愛される音楽館となるよう努める。浜辺の歌で繋がった縁を大切にしながら、文化面のみならず、様々な面において藤沢市との交流の輪が広がっていくことを願う」などとあいさつしました。
 続いて、北秋田市議会の黒澤芳彦議長と、浜辺の歌を電車の発車メロディーに採用しているJR辻堂駅のある神奈川県藤沢市の鈴木恒夫市長が祝辞を述べました。
 このあと、辻堂駅開設100周年事業実行委員会より、浜辺の歌を紹介した両市の交流の証と今後の交流の発展を記念して寄贈された大型置時計の除幕式が行われ、辻堂駅開設100周年事業実行委員会の永井洋一本部長が「辻堂駅開設100周年を迎えるにあたり、浜辺の歌を発車メ



▲寄贈された大型置時計の除幕式



▲津谷市長のあいさつ



▲寄贈者を代表してあいさつを述べる永井本部長

ロディーにしようと2万5000人の署名を集め、採用が実現した。この大型置時計が両市の発展、市民同士の交流に役立てればと思う」などと寄贈者を代表してあいさつを述べました。
 最後に、同音楽館2階の展示ホールにて、開館30周年記念合唱が行われ、約70人の市民で構成された合唱団が成田為三作曲の「浜辺の歌」「かなりや」「秋田県民歌」の3曲を声高らかに歌い上げ、故郷にメロディーを響かせました。